

272品目となっている。薬品の

■薬品のジェネリック（後発薬品）の推進

平成22年度病院事業の決算見込み（12月末現在） 単位：千円

区分	平成21年度	平成22年度	備考
事業収益(1)	6,608,331	7,575,862	
医業収益 （一般患者のみ）	5,563,388	6,178,613	平成22年度は入院収益は平均245人、外来収益は596人で算出
医業外収益ほか	1,044,943	1,397,249	
事業費用(2)	6,950,077	7,119,447	減価償却費、資産減耗費などの現金を伴わない経費を除く
①収益的収支(1)-(2)	▲341,746	456,415	
②資本的収支	▲484,409	▲452,644	企業債、出資金など
資金不足額①-②	▲826,155	3,771	

に比べ、いずれも患者数が伸び悩んでおり、決算では377万円の黒字を見込んでいた。委員▼377万円の黒字見込では安心できない。さらなる経費の削減に取り組んでほしい。

加入するため、職員すべてが対象となることから水道、病院などの業務

■退職手当組合の脱退

委員▼できれば倍の1億5000万円程度の削減に取り組んでほしい。

■委託料の見直し

後発薬品の品目数

区分	後発薬品以外	後発薬品	後発薬品の割合
平成18年度	1,796	103	5.4%
平成19年度	1,805	132	6.8%
平成20年度	1,779	176	9.0%
平成21年度	1,729	202	10.5%
平成22年度	1,629	272	14.3%

※平成22年度は11月末現在の数値

ジェネリック化は14.3%で年々増加傾向にある。委員▼取り扱う薬品目数が多すぎる。薬品のジェネリック化は20%を目標に推進してほしい。

慢性期医療を担当している。中央病院はうつ病で死にたくなっている人、認知症で徘徊し家族が対応できない人など急性期、救急、合併症患者に

■精神神経科（現メンタルヘルス科）の見直し

委員▼了承した。

■患者数、医業収益の動向

委員▼前年と比べて10月の入院患者数が減少した原因は何か。病院▼医師が1人辞めたことなどが原因である。

5月に開催することとして閉会しました。経営評価委員会の会議録は後日、市ホームページでお知らせします。

■病院事業健全化計画の方向性

委員▼不良債務を全額肩代わりする市の方針をおおむね評価する。しかし、これはあくまでも対処療法であり、病院の構造的な問題が改善されないとならぬ。新たな赤字を生むことになる。医療確保など市全体で医療政策に取り組んでいただきたい。

■平成22年度の決算見込み

委員▼外來患者が増えており医業収益も増えている。上十三地域は自殺者が多いため地域医療の観点からみると精神神経科は必要である。

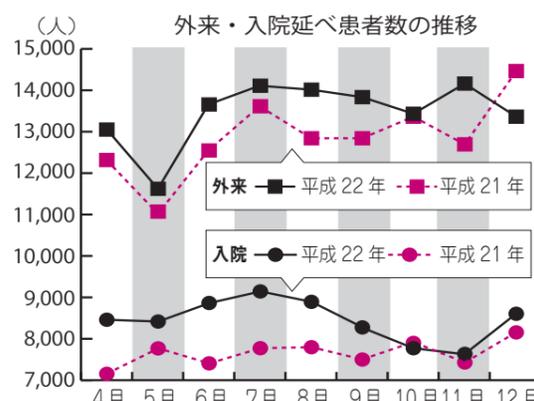


第2回病院事業経営評価委員会が開催

地方公営企業法全部適用に移行し、平成22年度の単年度収支の黒字化を必達目標として経営改革に取り組む中央病院。この中央病院の経営状況を点検、評価し、市長に意見を申し入れる組織として設置された病院事業経営評価委員会の第2回目の会合が2月4日、中央病院で開催されました。経営評価委員会に出席した小山田市長は、中央病院の健全な運営を目指すため、不良債務を市の一般会計から繰り出し、早期返済する意向を表明しました。

2月4日、中央病院で開催された第2回十和田市病院事業経営評価委員会では、市議会議員や市民、病院職員が傍聴する中、昨年10月5日の初会合で求められた患者数の動向や財政収支に関する資料を基に病院事業の経営状況について話し合われました。

また、昨年12月24日に、市に提出された個別外部監査結果報告書の内容についても話し合われ、メンタルヘルス科の見直しや今後の経営改善などについて検討しました。



十和田市病院事業経営評価委員会委員

委員名	役職	備考
1 栗谷 義樹	委員長	地方独立行政法人山形県酒田市病院機構理事長
2 吉田 茂昭	委員	青森県病院事業管理者
3 三浦 康久	委員	前弘前大学副学長
4 小久保 純一	委員	市副市長